

# 新潟県立歴史博物館評価委員会

## 平成 27 年度 館の自己点検に対する 二次点検評価報告書

平成 28 年 8 月



## 活動評価表（総括）

### 博物館の基本理念

- 県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像※を県民とともに創造していきます。
- 人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して

『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

### I 博物館による自己点検と評価

○ [評価指標] 利用者数 (単位：人)

	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度
	実績	目標	実績	目標
① 利用者総数	(単年) 103,990 (前計画期間平均) 123,348	増加 させる	100,718	増加 させる
② 観覧者数	(単年) 62,737 (前計画期間平均) 63,862		45,491	

○ [評価指標] 満足度 (単位：%)

	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度
	実績	目標	実績	目標
① 来館者満足度	94%	維持・向上 させる	94.8% (362/382)	維持・向上 させる
② 企画展	87%		86.5% (3,108/3,591)	
③ 講座等 講座・講演会 体験コーナー	89%		91.1% (889/976)	
	99%		99.4% (152/153)	
④ 来館者対応	100%	99.0% (203/205)		

○取組実績

- (1) 収集保管 収蔵資料データ整理の進展（民俗資料約 900 点、考古資料 464 点）、収蔵庫の良好な保存環境の継続
- (2) 展示 [常設展] 展示環境の維持、ワンポイント解説ゲスト解説の実施  
[企画展] 有料展覧会 4 回実施（「大正ロマン昭和モダン」、「北前船」、「岩に刻まれた古代美術」、「UMIAGARI」）  
[その他] 移動展覧会「復興祈念展」（十日町市、佐渡市）
- (3) 調査研究 外部研究費新規 4 件（他に共同研究者、研究協力者としての取得 3 件）
- (4) 教育普及 館内講座・出前講座の継続、体験活動の新プログラム 2 件導入、教育機関への周知活動の継続、館内ボランティア活動の活発化
- (5) 連携 社会福祉施設などとの新規連携、地域史研究ネットワーク、友の会事業の着実な充実 など
- (6) 情報発信 新聞雑誌等への露出増、ホームページ及び SNS（フェイスブッ

	ク、ツイッター)による情報発信 (7)管理運営 博物館運営方針 (H24～28)に基づいたPDCAの継続
分析	<p>(1)利用者総数、観覧者数ともに昨年度を下回っている。特に観覧者数の減が著しい。</p> <p>★観覧者数 常設展 H26 : 18,607 人→H27 : 15,034 人 (3,573 人減)  ※うち、有料観覧者数 10,658 人=57.3%  →9,009 人=59.9% (1,649 人減、2.6%増)</p> <p>企画展 H26 : 44,130 人→H27 : 30,457 人 (13,673 人減)  ※うち、有料観覧者数 30,416 人=68.9%  →14,016 人=46.0% (16,400 人、22.9%減)</p> <p>企画展のメインと位置づけていた前年「親鸞展」(春、29,113 人)と今年「北前船」(夏、6,879 人)の差が大きい。館外活動(共催企画展の他館開催、移動展)などでの利用者増により、利用者総数は約3千人の微減にとどまっている。</p> <p>(2)満足度の評価指標は、各項目とも昨年並みを維持している。相対的には企画展がやや低い。</p> <p>(3)取組実績のうち、外部研究費(科研費)新規4件、連携活動の活発化、情報発信の拡充強化などが一定の成果として挙げられる。</p>
課題	<p>(1) 企画展の展示方法・テーマ設定の工夫</p> <p>(2) 具体的な集客に向けた広報等への一層の取組</p> <p>(3) 調査研究活動の充実と県民還元</p> <p>(4) 支援団体・協力者との一層の連携強化</p>

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<p>評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/></p>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた予算と人員の中で、各種数値目標を達成しようとする努力を評価したい。利用者総数は減少しているが、博物館自体の活動は、満足度などから着実に県民に定着しつつあると思われる。</li> <li>・来館者だけでなく、館所蔵資料などを外部に対して情報提供(PR)し、館の認知度を高める必要がある。</li> <li>・企画展においては観覧者数が減少しているので、立案にあたっては、県民の多様な要望をよりの確に把握するとともに、入館者の増加に努めて欲しい。</li> <li>・今後は、上記の自己点検と分析・課題に取りあげられている項目について、より一層の充実をはかるよう取り組んでいただきたい。</li> <li>・地域との連携をさらに深め、博物館の調査・研究活動が契機となり、地域住民による地域の魅力や価値の発見、さらにそこから地域創生にもつながるよう努力していただきたい。</li> <li>・経年ともなう施設設備・常設展示・機器等の劣化も目につくので、各種機器や展示、設備などの更新についても特段の配慮をお願いしたい。</li> </ul>

## 活動評価表

機能・取組分野	収集・保管	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を押し進める。</li> <li>・ 良好な資料保存環境を維持する。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。</li> <li>・ I P M（総合的有害生物管理）による環境管理を継続する。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価				
取組実績	○ [評価指標] 収蔵資料目録の刊行準備			
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
		実績	目標	実績
		1 目録	1	1 目録
	○ [評価指標] データベース基礎資料作成			
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
		実績	目標	実績
		継続 (900)	継続	継続(1364 点)
		<p>収集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 資料寄贈 1315 点 幕末明治期学習教材、日露戦争従軍関係資料など</li> <li>(2) 収蔵資料破損 なし</li> <li>(3) 収蔵資料目録刊行 紀要に収録</li> <li>(4) データベース化のための整理作業 民俗資料約 900 点、考古資料約 464 点</li> <li>(5) 収蔵品検索システムの更新 館内での移行を終了、公開に向け移行作業中</li> </ul> <p>保管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 文化財害虫モニタリング測定 月 1 回</li> <li>(2) 殺・防虫消毒 展示室殺虫消毒 1 回 館内殺虫消毒 1 回 館外防虫施工 3 回 燻蒸室内燻蒸 2 回</li> <li>(3) 収蔵庫温湿度管理 通年</li> <li>(4) 空気環境管理 酸・アルカリ濃度測定 4 回 (収蔵庫、企画展示室) カビ等浮遊菌調査・イオンクロマトグラフ空気中物質測定 各 1 回</li> <li>(5) 収蔵庫定期清掃及び資料点検 1 回</li> <li>(6) 収蔵庫定期点検 月 1 回</li> <li>(7) IPM 研修 2 回</li> <li>(8) 保管環境研修会参加 文化財 I P M コーディネータ講習会</li> </ul>		
		<p>分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 目録は紀要として刊行する。</li> <li>(2) データベース入力は継続している。</li> <li>(3) 25 年度後期から異常発生対応マニュアルに基づき「異常発生記録簿」・「定期点検簿」への記載、月 1 回の定期検査（目視確認）を継続。</li> <li>(4) 保管環境は IPM、殺・防虫消毒、温湿度管理、空気環境管理、清掃、定期点検をとおして良好に維持されている。</li> <li>(5) 全国規模の保管環境研修への館員参加によって、職員個々の技術の維持向上をはかっている。</li> </ul>		

課題	(1)データベース作成に係る整理作業員の確保が依然課題である。
----	---------------------------------

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる    やや評価できる <span style="border: 1px solid black;">やや評価できない</span> 評価できない    判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目録の刊行、データベース基礎資料作成ともに少ない人数の中で、実績は上げ、保管についても瑕疵はない。ただ、新システムに移行完了したという収蔵品検索システムは現時点では、外部からの実際の利用には十分対応できない状況にある（※「縄文」と入力してもヒットするのは文献資料2件のみ）。ある程度のマスを確保した上での運用でなければかえって誤解を生む恐れもある。必要最低限のデータだけでもシステムに載せるという発想も必要では。</li> <li>・ 収蔵品検索システムを早期に完全移行（公開）できるよう、努力してもらいたい。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	展示－常設展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。</li> <li>・常設展示の十分な活用を押し進める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。</li> <li>・より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 交換展示資料												
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>71 点</td> <td>80 点</td> <td>65 点</td> <td>80 点</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	71 点	80 点	65 点	80 点
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度									
	実績	目標	実績	目標									
	71 点	80 点	65 点	80 点									
	○ [評価指標] ワンポイント解説												
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>499 人</td> <td>480</td> <td>541</td> <td>500 人</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	499 人	480	541	500 人
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度									
	実績	目標	実績	目標									
	499 人	480	541	500 人									
(1) 定期資料展示替え 4 月（新潟県のあゆみ・雪とくらし・米づくり）、10 月（新潟県のあゆみ・米づくり・縄文文化を探る） そのうち、新規公開は 4 点（新発田市村尻遺跡・重文資料など）。													
(2) 常設展定期点検 隔週（照明・電気の点検、ケース内及びガラス清掃）													
(3) 常設展の保守点検・補修 2 回（展示品・機器の総合点検）													
(4) 短期収蔵品展示 直江状など。													
(5) 常設展示ワンポイント解説ゲスト解説の実施 27 年度より、他館の学芸員等によるゲスト解説を実施。7 月・燕市産業史料館・齋藤優介学芸員、11 月・阿賀野市立吉田東伍記念博物館・渡辺文男館長、3 月・新潟県政記念館・川端弘実館長													
(6) ジオラマ照明の LED 化を一部行った。													
(7) アンケートでの要望があった映像視聴用の椅子を設置した。													
分析	<p>(1) 展示資料交換を行っていることが観覧者にわかるように展示期間を明示している。</p> <p>(2) 設備・機器・資料等は定期点検や保守点検で維持され、良好な見学環境を保っている。</p>												
課題	(1) 音声解説器・映像情報コーナー機器など部品調達の困難な展示機器の更新を数年内に行う必要がある。												

### II 評価委員会による検証・評価

取組に対する 全体的評価	評価できる <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンポイント解説のゲスト解説など、例年にない新しい試みの事業は評価できる。</li> <li>・一方、開館当初から常設展示内の大型展示は、展示替えが難しいであろうが、常設展示のリニューアルの検討を要するのではないか。</li> </ul>

# 活動評価表

機能・取組分野	展示－企画展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。</li> <li>・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回程度の企画展の実施を目標とする。</li> <li>・入場者の満足度を高める</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価																		
取組実績	○ [評価指標] 企画展回数	<table border="1"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>4 回</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4 回</td> </tr> </table>		平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	4 回	4	4	4 回			
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度														
	実績	目標	実績	目標														
	4 回	4	4	4 回														
	○ [評価指標] 満足度	<table border="1"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>87%</td> <td>90%</td> <td>86.5% (3,108/3,591)</td> <td>90%</td> </tr> </table>		平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	87%	90%	86.5% (3,108/3,591)	90%			
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度														
	実績	目標	実績	目標														
	87%	90%	86.5% (3,108/3,591)	90%														
	(1) 企画展	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>観覧者数(実績)</th> <th>(開催日数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>春「大正ロマン昭和モダン」</td> <td>13,064 人</td> <td>(40 日)</td> </tr> <tr> <td>夏「北前船」</td> <td>6,879 人</td> <td>(40 日)</td> </tr> <tr> <td>秋「岩に刻まれた古代美術」</td> <td>3,590 人</td> <td>(33 日)</td> </tr> <tr> <td>冬「UMIAGARI」</td> <td>6,924 人</td> <td>(75 日)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※企画展の目的・展示内容・関連イベント・広報等の詳細は別紙</p>			観覧者数(実績)	(開催日数)	春「大正ロマン昭和モダン」	13,064 人	(40 日)	夏「北前船」	6,879 人	(40 日)	秋「岩に刻まれた古代美術」	3,590 人	(33 日)	冬「UMIAGARI」	6,924 人	(75 日)
		観覧者数(実績)	(開催日数)															
春「大正ロマン昭和モダン」	13,064 人	(40 日)																
夏「北前船」	6,879 人	(40 日)																
秋「岩に刻まれた古代美術」	3,590 人	(33 日)																
冬「UMIAGARI」	6,924 人	(75 日)																
(2) 関連講演・講座	講演会毎回開催、解説実施																	
(3) 関連イベント等	春「国際博物館の日記念 無料観覧日」の設定 「髪飾りを作ろう！」(体験コーナー) 夏「ミニ船絵馬を作ろう！」「かんたんさき織り (体験コーナー)」 リレー講演会 (全6回) 開催 秋「まが玉を作ろう！」(体験コーナー) 冬「縄文文様コロコロ体験」(体験コーナー)																	
(4) 塗り絵コーナー	春季企画展で実施																	
(5) クイズラリー・折り紙コーナー	夏季企画展で実施																	
(6) その他	「マイコレクション展」、「子ども縄文展」を開催																	
分析	(1) 春季・夏季・冬季はそれぞれ他館・団体との共同企画による展覧会となった。 (2) 講演会・関連イベントなどは、好評を得た。 (3) 春季展は、麓谷虹児の知名度も功を奏し、多くの来館者をむかえることができた。絵画中心の美術展が歴史博物館で開催されることに違和感をもたれるのではないかと心配は杞憂であった。 夏季展は、15 周年記念展であり、兵庫県立歴史博物館との連携により、																	



	<p>充実した展示内容を実現できた。海の学びミュージアムサポートの助成をえて、リレー講演会に加えて、海洋教育を目的とした子ども向けプログラムも実施したが、観覧者増には結びつかなかった。</p> <p><b>秋季展</b>は、新潟とも関わりの深いハバロフスク近郊の遺跡と少数民族を対象とした展覧会であったが、県民の高い関心を得ることは困難な素材であった。</p> <p><b>冬季展</b>は、なじみのないテーマかと思われるが、展示手法を工夫すること（展示室を地図に見立てる）、また、日本アニメ・マンガ専門学校との連携により、理解の促進を図った。</p> <p>(4)展覧会を通じた県内外の諸団体との連携を図っており、研究員の研究成果も還元された（夏季・冬季展）。</p>
課題	<p>(1)展示を見せる工夫に時間を割くことが難しい現状にある。</p> <p>(2)集客面から広報・交流普及担当と、より質の高い連携が必要である。</p>

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<p>評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/></p>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>・企画展示は、県民に馴染みの少ないテーマのものもあったが、内容は評価できる。引き続き来館者層やアンケートの分析を続け県民に広く周知を図ってほしい。</p>

展覧会名	大正ロマン昭和モダン展	期 間	平成 27 年 4 月 25 日(土)～6 月 7 日(日) (40 日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、新潟日报社 後援：国際浮世絵学会、新潟県教育委員会、長岡市、新発田市、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、柏崎日報社、NHK 新潟放送局、BSN 新潟放送、NST、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FM ながおか 80.7、エフエム上越、新潟史学会、新潟県民俗学会 企画協力：E.M.I.ネットワーク		
開催目的	大正～昭和初期にかけての時代に新たに大衆文化が開き、雑誌を舞台に展開された印刷美術はその一例。本展示は、雑誌の表紙や挿絵に描かれた竹久夢二、高島華宵、露谷虹児、中原淳一、橘小夢、岩田専太郎、松本かつち、など多彩な作家たちの作品を通じて、その時代における社会や人々の生活、文化を振り返る。		
特記事項	中右瑛氏（国際浮世絵学会常任理事）のコレクションによる巡回展。当館が 7 館目で、日本海沿岸地域では初めての巡回。		

観覧者数	実 績	予算上の見込値	達成率
	13,064 人 (うち有料 5,788 人)	15,139 人 (うち有料 6,482 人)	86%
展示構成・内容	・竹久夢二 一恋と彷徨の人生 ・露谷虹児 ・橘小夢 ・高島華宵 一美少年・美少女 理想世界一 ・日本画・浮世絵の流れ ・創作版画 ・新版画運動 ・抒情画家 ・中原淳一・松本かつち・岩田専太郎		(付記事項)
展示品・借用	中右瑛がもつ個人コレクションの巡回展。E.M.I.ネットワークが企画協力。挿絵、版画、日本画、雑誌や楽譜など約 250 点ほど。		
パネル・図録等製作	巡回展のためパネル作製なし。展示資料が多くあるため、与えられた 250 点の資料の展示に力を入れ、新たに展示コーナーは設けなかった。		

関連イベント	講座・講演会	・「夢二、華宵 大正ロマンの画家たち」 講師：中右瑛氏 日時：4 月 25 日 (土) ・「大正～昭和初期の少女雑誌の世界―淳一、かつち、村岡花子」 講師：内田静枝氏 日時：5 月 16 日 (日)	
	展示解説	延べ 12 回の展示解説を実施。	
	体験イベント	・おしゃれぬり絵を楽しもう！(企画展示室前) 10 種類/計 4 万枚印刷 ・髪飾りを作ろう！(体験コーナー) 10 回 402 人	
	その他	・県内図書館 5 館にて大正ロマン、昭和モダンのテーマ展示を開催。 ・美術を学ぶ方だけの特別内覧会 4/19 開催 7 名参加 ・WEB 内覧会 4/19 開催 4 名参加 ・図書館職員だけの特別内覧会 4/20 開催 40 名参加 ・ミュージアムコンサート 「春に聴くソプラノとチェンバロの調べ～明治レトロ、大正ロマン、昭和モダンそして夢二」5/30 開催 131 名参加 ・浅井研究員と巡るロマンの旅(露谷虹児記念館見学) 5/23 開催 27 名参加 ・表千家われもこう呈茶席の開催 4 回 計 543 名	
広報	有料広告	主催広告	新潟日報 広告 16 回 (半 5 段 8 回、半 3 段 8 回)
		広告	nassh スタンプラリー (4/23 号)、マイスキップ 5 月号、FM ながおか CM25 回、しばた 10 回/ながおか 25 回 (5 分枠特別番組「露谷虹児の世界」2 局各 1 回オンエア含む)
	無料広告	取材報道	<b>【新聞】</b> 3 件 (新潟日報 2 回、長岡新聞 1 回) <b>【テレビ・ラジオ】</b> 4 件 (NST 1 回、FM ながおか 3 回)
		企画報道	<b>【市町村広報誌等】</b> 市町村広報誌 3 回 (新発田、村上、出雲崎)、県民だより春号 <b>【新聞・雑誌等】</b> 新潟日報 (県からのお知らせ)、新潟日報 (文化欄)、マイスキップ 5 月号 <b>【テレビ・ラジオ】</b> NHK (テレビ)、エフエムしばた、富山シティエフエム <b>【地域振興局広報枠】</b> 新発田地域振興局「県からのお知らせ」エフエム新発田
		パブリシティ	<b>【新聞紹介】</b> 25 件 (新潟日報 17 回、産経新聞 1 回、三条新聞 1 回、妻有新聞 1 回、nassh 1 回 (ほか)) <b>【雑誌等】</b> キャレレ 6 月号、ホットベッパ―宇都宮版 5/29 号、うまさぎっしり新潟、にいがた文化 <b>【ラジオ】</b> FM ながおか、FM 群馬、富山シティエフエム <b>【インターネットサイト等】</b> 県庁 HP、にいがた観光ナビ、るぶ.com、Komachiweb など 10 件以上
	プレパブ	20 件 (てく宅、Doos ブログ、月刊 Deli-J4 月号、トチペ 4 月号、月刊誌 Takt4 月号、街かどこんぱす、ナジラビ長岡・見附版 4 月号、まるごと生活情報 3/28 号、ビバ! アミーゴ 3/25 号、FM ぐんま (ほか))	
その他 (ポスター等)	<b>【ポスター・チラシ】</b> 特に、主要図書館 5 館における企画展連動テーマ展示の開催ポスター掲出、チラシ設置、花いっぱいフェア 2015 会場でのチラシ配布		

経費	・ 県費からの支出決算 6,316 千円 ・ 収入決算 3,777 千円
----	--------------------------------------

総括	多くの挿絵、版面の展示ではあるが、挿絵雑誌などにある印刷美術の歴史性に注目し、県内の図書館との連携を取り、また、当時の少女の生活文化を紹介するような講演会を開催することなど、工夫し、挿絵雑誌を通じて、当時の歴史、生活文化の変化の一端を紹介し、歴史博物館ならではの見方の紹介に力を入れた。
----	---

展覧会名	北前船	期 間	平成 27 年 7 月 25 日(土)～9 月 26 日(日)(40 日間)
関係団体	主催：「北前船」展実行委員会（構成団体：新潟県立歴史博物館、兵庫県立歴史博物館、新潟日報社） 後援：新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、上越市、柏崎市、村上市、糸魚川市、佐渡市、胎内市、聖籠町、出雲崎町、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、柏崎日報社、株式会社上越タイムス、上越よみうり、(株)村上新聞社、NHK 新潟放送局、BSN 新潟放送、NST、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FM ながおか 80.7、FM-J エフエム上越、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会 協力：船の科学館・海の学びミュージアムサポート		
開催目的	近世・近現代の大動脈であり、新潟の経済・文化に大きな影響を与えた西廻り航路の海運についての展覧会で、船の形態、経済活動、もたらした産物、文化などを紹介する。北前船は近世の物流の動脈といわれ、原材料と生産された品々の双方を運ぶ存在で、各地の産業に不可欠なものであった。北海道で生産された鯨粕（肥料用）が北前船によって関西に運ばれ、綿生産に大きく寄与したことはよく知られているが、この綿も布・古手となって、また北前船で北海道に運ばれ、鯨粕の生産の場で使われている。また、北前船から港を介し、川船を利用した水運によって内陸まで網の目のように流通網が作られ、北前船で運ばれた物資は内陸、山間部の産業、生活にも大きな影響を与えていたことを示す。		
特記事項	平成 24 年度～27 年度の総合研究「北前船」の成果と連動して展示計画を策定。兵庫県立歴史博物館との 2 館による共同企画展示。		

観覧者数	実 績	予算上の見込値	達成率
	6,879 人 (うち有料 3,024 人)	20,480 人 (うち有料 9,096 人)	34%
展示構成・内容	1 北前船の航海 2 北前船が運んだもの 3 海から川へ		(付記事項) 兵庫県立歴史博物館での入館者数 9,876 人
展示品・借用	北陸から北を新潟県立歴史博物館が担当、西を兵庫県立歴史博物館が担当することによってより広範囲から展示資料を借用する。27 年度から借用交渉。		
パネル・図録等製作	親鸞展のデザインを参考に外部委託。クリアファイルを景品としてクイズラリーを実施。船の科学館の助成条件である「海の学び」に関連して、北前船の航海ルートを積荷とともにだるとことできるマグネットパネルを作成。今後の博学連携にも利用可。		

関連イベント	講座・講演会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リレー講演会を開催 7 月 4 日 佐渡会場 82 名、7 月 11 日 上越会場 67 名、7 月 20 日 村上会場 86 名、 8 月 5 日 新潟会場 143 名</li> <li>・特別講演会（館内） 8 月 9 日 福原敏男氏「新潟湊祭の歴史と文化」 83 名 8 月 30 日 中西聡氏「越後・佐渡の北前船主」 131 名</li> </ul>	
	展示解説	会期中土日、随時開催 その他、団体対応のため数回実施	
	体験イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ船絵馬を作ろう！8 回 298 人</li> <li>・かんたんさき織り 6 回 92 人</li> <li>・船の折り紙づくり教室 8/22(土)開催 午前 15 組/午後 12 組の親子参加</li> </ul>	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡農業高校プレゼンツ北前船展特別メニュー試食会 8/20（木）※NST の取材</li> <li>・理美容組合特別見学会の開催 8/18(月) 2 回 合計 25 社 67 7 名 ※新潟日報、TeNY、日本農業新聞の取材</li> </ul>	
広報	有料広告	主催広告	新潟日報 広告 14 回（半 5 段 9 回、半 3 段 5 回）うち下越版 3 回、上中越版 3 回
		広告	FM PORT 20 秒スポット（全 18 回）、北日本新聞フルカラー広告（半 3 段）円、県庁西回廊 懸垂幕掲出 7/1～9/6、越後交通市内中央循環バス(くるりん) ポスター掲出 3 台×1 ヶ月、
	無料広告	取材報道	<b>【新聞】</b> 9 件（新潟日報 6 回、長岡新聞 1 回、村上新聞 1 回、日本農業新聞 1 回） <b>【テレビ・ラジオ】</b> 5 件（TeNY1 回、NST 1 回、FM ながおか 3 回）
		企画報道	<b>【市町村広報誌等】</b> 市町村広報誌 3 回（村上、上越） <b>【新聞・雑誌等】</b> 上越タイムス <b>【テレビ・ラジオ】</b> BSN、FM PORT、FM ながおか、FM 上越、FM ピッカラ、FM しばた
		パブリシティ	<b>【新聞紹介】</b> 30 件（新潟日報 14 回、朝日新聞 1 回、十日町新聞 1 回、糸魚川タイムス 2 回、いわふね新聞 1 回、福島民報社朝刊別冊 TIME1 回、assh1 回 ほか） <b>【雑誌等】</b> 6 件（東北関東じゃらん 7 月号、キャレル 8 月号、月刊庄内小僧 8 月号 ほか）
		プレパブ	21 件（月刊いいがた 6 月号、月刊ヴィアン 6 月号、ジャックランド 7 月号、新潟 WEEK!8/7 号、妻有新聞、村上新聞、ふむふむ、そいがあて、FM 群馬、FM PORT ほか）
その他 (ポスター等)	<b>【A 4 チラシ】</b> 特に、新潟県理容・美容業生活衛生同業組合員、東京新潟県人会 納涼大会、北前船寄港地フォーラム in 大阪 会場内、近県の北前船関連施設 <b>【北前船リレー講演会】</b> リレー講演会専用チラシ <b>【うちわ】</b> 長岡まつり祭り広場出展(8/2)、新潟日報メディアシップ夏まつり出展(8/7.8)		

経費	・ 県費からの支出決算 8,280 千円 ・ 収入決算 2,586 千円（北前船展実行委員会支出決算 13,421 千円）
----	---

総括	開館 15 周年記念展であり、兵庫県立歴史博物館との連携により、充実した展示内容を実現できた。海の学びミュージアムサポートの助成を得て、リレー講演会に加えて、海洋教育を目的とした子ども向けプログラムも実施したが、観覧者増には結びつかなかった。
----	---

展覧会名	岩に刻まれた古代美術－アムール河の少数民族の聖地シカチ・アリヤン	期 間	平成 27 年 9 月 19 日(土)～10 月 25 日(日)(33 日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、新潟日报社 共催：国立民族学博物館、横浜ユーラシア文化館 協力：NPO ユーラシアンクラブ、北方ユーラシア学会、NPO アンコール・ワット拓本保存会、ロシア連邦ハバロフスク地方シカチ・アリヤン村、ロシア北方先住民族協会ハバロフスク地方支部、NPO メデ・センター 後援：在新潟ロシア総領事館、新潟県教育委員会、新潟市、長岡市、(公財)新潟県国際交流協会、(公財)新潟市国際交流協会、(公財)長岡市国際交流協会、新潟県日口親善協会、NPO ユーラシア協会新潟県支部、新潟・ハバロフスク・ウラジオストク・ピロビジャン友好市民委員会、(一社)新潟県労働者福祉協議会、朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、NHK 新潟放送局、BSN 新潟放送、NST、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FM ながおほか 80.7、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会		
開催目的	ロシア連邦ハバロフスク地方シカチ・アリヤンは、アムール河に面したツングース系少数民族ナナイを中心とした漁労民の村である。この村のアムール河の岸辺には岩に刻み込まれた古代美術として知られる「岩面画」が多数あり、日本の鳥居龍蔵、アメリカのパーソルド・ラウファーをはじめ、世界の考古学者、民族学者から注目されてきた。「岩面画」の近くには、日本列島の最古級土器と対比される遺物の出土しているガーシャ遺跡があり、「岩面画」を残した人びとも考えられている。本企画展は、北東アジア最大の文化遺産のひとつ「岩面画」を拓本と写真で展示し、あわせてシカチ・アリヤンの少数民族ナナイの人びとが、射日神話や生命樹信仰に象徴される彼らの文化を「岩面画」と結びつけ、それに寄り添うように生活しているようすを紹介する。		
特記事項	国立民族学博物館巡回展（当館、国立民族学博物館、横浜ユーラシア文化館の3館で巡回）。		

観覧者数	実 績	予算上の見込値	達成率
	3,590 人 (うち有料1,868 人)	8,250 人 (うち有料3,669 人)	44%
展示構成・内容	1 シカチ・アリヤンの岩面画 2 魚漁の文化 3 服飾文化 4 白樺樹皮文化と編み籠 5 シャーマニズムと精神文化 [関連展示] 新潟県の最古級土器	(付記事項) 国立民族学博物館の企画展として佐々木史郎教授の下で実施計画が策定された。当館は同館からの委嘱により展示計画に参加した。	
展示品・借用	列品資料及び演示具の一部を国立民族学博物館から借用した。関連資料として、長岡市科学博物館所蔵の小瀬が沢洞穴出土品と室谷洞穴出土品(国重要文化財)を借用し、「新潟県の最古級土器」コーナーを設けた。		
パネル・図録等製作	国立民族学博物館による。		

関連イベント	講座・講演会	講演会「アムール河の古代遺跡と先住民族の神話・世界観」 10月4日(日) 講師：佐々木史郎氏(国立民族学博物館 先端人類学研究所教授) 聴講者 80 名 関連講座「シカチ・アリヤンの岩面画をみる」 講師：当館専門研究員 聴講者 35 名
	展示解説	なし
	体験イベント	なし
	その他	まが玉づくり 16 回 606 人
広報	有料広告	主催広告 新潟日報
		広告 BSN 4 県ホームページ企画(スナッピー中継を含む)
	無料広告	取材報道 【新聞】 3 件(新潟日報 2 回、長岡新聞 1 回) 【テレビ・ラジオ】 1 件(FM ながおほか)
		企画報道 【市町村広報誌等】 県民だより(テレビ) 2 回、市町村広報誌 1 回(上越市) 【新聞・雑誌等】 新潟日報 1 回 【テレビ・ラジオ】 BSN ラジオ 1 回、FM ながおほか 1 回
		パブリシティ 【新聞紹介】 18 件(新潟日報 12 回、朝日新聞 1 回、信濃毎日新聞 1 回、長岡新聞 1 回、妻有新聞 1 回、nassh 1 回、月刊新聞「日本とユーラシア」1 回 ほか) 【雑誌】 キャレレ 9 月号、CUTIN campus 9/10 号、月刊みんぱく 9 月号、新潟文化祭イベントほか 【テレビ・ラジオ】 NHK テレビ、NHK ラジオ、FM ながおほか、FM ぐんま、NST「TV ウォッチング」ペアチケットプレゼント 10/6～9(4 日間) 【インターネットサイト等】 県庁 HP、にいがた観光ナビ、るるぶ.com など 10 件以上
	プレパブ	14 件(キャレレ 8 月号、Doos、ナジラビ長岡・見附版、スプーナ、ジャックランド 9 月号、暮らし役立ちナビ 9 月号、新潟 WEEK! 9/4 号、BSN 4 県ホームページ企画、妻有新聞社、FM ぐんま ほか)
	その他(ポスター等)	【A 4 チラシ】特に 新潟市・ロシアハバロフスク友好都市締結 50 周年の各種関連事業にて配布協力(新潟市国際課、新潟市国際交流協会、新潟県国際交流協会、日本ユーラシア協会)、留学生受入先大学機関(新潟大学、新潟県立大学 ほか)、アート系イベント会場(十日町妻有大地の芸術祭、新潟市「水と土の芸術祭」)、「米百俵まつり」出展での配布、県内学校(約 1000 校)

経費	・ 県費からの支出決算 3,112 千円	・ 収入決算 1,056 千円
----	----------------------	-----------------

総括	新潟とも関わりの深いハバロフスク近郊の遺跡と少数民族を対象とした展覧会であったが、県民の高い関心を得ることは困難な素材であった。身近にない異文化の紹介であり、新たな観覧者の獲得には寄与した。
----	---

展覧会名	UMIAGARI ー海揚がりー日本海に沈んだ陶磁器	期 間	平成 27 年 12 月 19 日(土)~28 年 3 月 21 日(日) (75 日間)
関係団体	主催：新潟県立歴史博物館、新潟日报社 共催：新潟市、長岡市教育委員会、柏崎市教育委員会、村上市教育委員会、上越市教育委員会、糸魚川市教育委員会、佐渡市教育委員会、出雲崎町教育委員会、新潟県教育委員会、(公財)新潟県埋蔵文化事業団 特別協力：新潟県海揚がり陶磁器研究会、JAM 日本アニメ・マンガ専門学校 後援：朝日新聞新潟総局、読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、日本経済新聞社長岡支局、産経新聞新潟支局、長岡新聞社、柏崎日报社、(株)村上新聞社、いわふね新聞社、株式会社上越タイムズ社、上越よみうり、NHK 新潟放送局、BSN 新潟放送、NST、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、JCV 上越ケーブルテレビジョン、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、FM ながおか 80.7、FM-J エフエム上越、(公社)上越市有線放送電話協会、新潟史学会、新潟県考古学会、新潟県民俗学会、新潟県市長会、新潟県町村会		
開催目的	骨董、古美術として愛でられる過去のやきもの(陶磁器)。過去のやきものは、博物館美術館に展示され、歴史を語り、芸術的感性を刺激する。その多くは発掘調査の出土品であり、人びとの生活の痕跡と位置づけられる。また寺社や旧家には、歴史的由緒や芸術的価値に護られた伝世品として現代にいたるものもあり、それら伝世品の中には、海揚がりの伝承をもつものがある。また、近代の底引き網漁の盛行とともに、海底から新たに引き揚げられたやきものも多い。 海揚がりの陶磁器は、北前船に象徴される海運などにかかわって、予期せず海底に残されたものか、故意に海へ投下されたものか、あるいはその他の事情によるものか、いずれにせよ、陸地にくらす日々の人びとのくらしから遊離した結果に由来する存在といえる。 日本海に面し、長い海岸線を有する新潟県には、海揚がりという来歴をもつ陶磁器が多数存在する。本企画展は、新潟県海揚がり陶磁器研究会の研究成果を示し、海揚がりの陶磁器が語る新たな歴史を紹介するものである。		
特記事項			

観覧者数	実 績	予算上の見込値	達成率
	6,924 人 (うち有料 3,336 人)	5,700 人 (うち有料 2,530 人)	122%
展示構成・内容	プロローグ 各地域の海揚がり(上越・糸魚川地域、柏崎・出雲崎地域、長岡(寺泊)地域、新潟地域、村上地域、佐渡地域) 沈んだ?沈めた?ー海中にあることの意味を考える エピローグー水中文化遺産とはー	(付記事項) 展示室内を地図に見立て、揚がった地点を示し、また、沈んだ理由を考えてもらう内容としたことで、「モノ」(陶磁器の歴史)の展示ではなく、「コト」(海に沈んだ、または海から揚がる)の展示とした。 本企画展は常設展料金と同額であるところから研究者やヘビーユーザーではなく、「ついで様」と考え、「ついで様」に「歴史博物館は難しい」と思われるのではなく、「歴史博物館は意外と楽しめる」という感覚を持ってもらう展示とした。	
展示品・借用	当館担当者及び新潟県海揚がり陶磁器研究会により展示品を選定した。同研究会の協力により多くの所蔵者から協力が得られた。		
パネル・図録等製作	パネルは自作。図録は作製せず。		

関連イベント	講座・講演会	記念講演会「水中考古学入門」(定員 150 名) 3 月 6 日 岩淵聡文 氏 (東京海洋大学大学院教授) 90 名	
	展示解説	1 月 23・24・30 日、2 月 13・14・20・21 日、3 月 13・20・21 日、午前 11 時~、午後 2 時~の 1 日 2 回	
	体験イベント	・体験コーナー「縄文文様コロコロ体験」13 回 507 人	
	その他	・展示解説に合わせ、WEB 広報協力者募集。	
広報	有料広告	主催広告	・新潟日報 広告 24 回 (半 3 段 24 回)うち上中越版 6 回
		広告	なし
	無料広告	取材報道	【新聞】 6 件 (新潟日報 2 回、読売新聞 1 回、朝日新聞 1 回、長岡新聞 1 回、信濃毎日新聞 1 回) 【テレビ・ラジオ】 1 件 (FM ながおか)
		企画報道	【市町村広報誌等】 かけはし 39 号、市町村広報誌 2 回 (上越市・阿賀野市)、首都圏向けラジオ広報 (広報広聴課枠)、BSN (広報広聴課枠)、FM ピッカラ 2 回 (柏崎地域振興局枠) ほかに 【新聞・雑誌等】 新潟日報 1 回 【テレビ・ラジオ】 FM ながおか 1
		パブリシティ	【新聞紹介】 59 件 (新潟日報 37 回、毎日新聞 1 回、信濃毎日新聞 2 回、長岡新聞 3 回、上越タイムズ 1 回、assh1 回、nassh1 回、ニュースあらかると 2 回、長岡よみうり 3 回、陶業時報 1 回) ほかに 【雑誌】 カルチャーにいがた 85 号、キャレル 11 月号、シーズン 12 月号、mom3 月号) ほかに 【テレビ・ラジオ】 BSN テレビ、NHK テレビ 2 回、文化放送、NHK ラジオ、FM ながおか 6 回、FM ピッカラ 2 回、FM ぐんま) ほかに 【インターネットサイト等】 県庁 HP、にいがた観光ナビ、るるぶ.com など 10 件以上
		プレパブ	19 件 (シーズン 10・11 月号、DooS11・12 月号、ナジラビ県央版 11/20 号、キャレル 12 月号、ジャックランド 12 月号、パルジェ 12/4 号、燕人 12/18 号、妻有新聞、村上新聞、長岡新聞、朝日新聞) ほかに
その他 (ポスター等)	【A 4 チラシ】 特に 新潟市文化財センター主催「市遺跡発掘調査速報会」2/21 開催、埋蔵文化祭関連施設へのチラシ補充(5 施設)、柏崎市内住民向けチラシ回覧の実施(3,700 部/有料)		

経費	・ 県費からの支出決算 1,052 千円 ・ 収入決算 1,623 千円
----	--------------------------------------

総括	なじみのないテーマかと思われるが、展示手法を工夫すること(展示室を地図に見立てる)、また、日本アニメ・マンガ専門学校との連携により、理解の促進を図った。
----	--

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	調査・研究	学芸課・経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。</li> <li>・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。</li> <li>・講座参加者の満足度を高める。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ [評価指標] 外部研究費取得件数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td colspan="2">平成 27 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>3(+4)</td> <td>6</td> <td>4(+3)</td> <td>6 件</td> </tr> </table>			平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	3(+4)	6	4(+3)	6 件
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	3(+4)	6	4(+3)	6 件												
	○ [評価指標] 学会発表等件数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td colspan="2">平成 27 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>7 回</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>16 回</td> </tr> </table>			平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	7 回	10	7	16 回
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	7 回	10	7	16 回												
	○ [評価指標] 論文等執筆件数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td colspan="2">平成 27 年度</td> <td>平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>44 回</td> <td>60</td> <td>51</td> <td>80 回</td> </tr> </table>			平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	44 回	60	51	80 回
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	44 回	60	51	80 回												
	(1) <b>外部研究費</b> (科学研究費ほか) 新規 4 (科研費)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陳玲 (研究代表者) 「災害復興過程の民俗の再構築」科学研究費基盤C</li> <li>・宮尾亨 (研究代表者) 「博物館収蔵資料活用と波及効果の研究」科学研究費挑戦的萌芽 ほか</li> <li>・[評価指標：外部研究費取得件数] の括弧内は、共同研究者、研究協力者としての外部研究費取得件数</li> </ul>														
	(2) <b>学会発表等</b> 日本ガラス工芸学会、日本科学教育学会ほか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西田泰民 「Jomon dugout boats and load estimation」MESO2015 (セルビア科学芸術アカデミー)</li> <li>・渡部浩二 「越後国新発田城下町の都市構造とその GIS 分析」日本地理学会</li> </ul>														
(3) <b>論文等執筆</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前嶋敏 「上杉輝虎発給文書の花押とその変更」『新潟史学』73</li> <li>・陳玲 「暮らしの中の糸づくり—津南の事例を中心に—」『高志路』399</li> </ul>															
(4) <b>館内総合研究の還元</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「越後佐渡における呪符の総合的研究」(研究代表者・浅井勝利) →平成 28 年度春季企画展「おふだにねがいを—呪符—」</li> <li>・「アンギンの復元的研究」(研究代表者・陳玲) →平成 28 年度冬季企画展「すてきな布—アンギン研究 100 年—」</li> </ul>															
分 析	(1) 外部研究費は新規に 4 件を獲得した。 (2) 学会発表等は例年なみであり、目標値の設定を変更する必要があるか。															
課 題	(1) 日常業務の中で研究に当てることが出来る割合に差が生じるため、中期的な見通しを持った業務配分が必要である															

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研究費を新規で獲得できたり、研究内容が県民に還元できるようになってきていることは好ましい。学会発表数や論文執筆集の数も大事ではあるが、査読論文数や引用件数など質も高め、研鑽していく必要がある。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	教育・普及 / 学校教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に一層活用される博物館を目指す。</li> <li>・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。</li> <li>・館内及び館外活動の充実を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関への施設利用の周知</li> <li>・体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ 県内小学校の来館率	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">平成 26 年度</td> <td colspan="2" style="width: 50%;">平成 27 年度</td> <td style="width: 25%;">平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">29%</td> <td style="text-align: center;">34%</td> <td style="text-align: center;">28.5%</td> <td style="text-align: center;">35%</td> </tr> </table>			平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	29%	34%	28.5%	35%
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	29%	34%	28.5%	35%												
	○ 体験活動の新プログラム導入件数	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">平成 26 年度</td> <td colspan="2" style="width: 50%;">平成 27 年度</td> <td style="width: 25%;">平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">1</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">1 件以上</td> </tr> </table>			平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	1	1	2	1 件以上
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	1	1	2	1 件以上												
	○ 体験コーナーの参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">平成 26 年度</td> <td colspan="2" style="width: 50%;">平成 27 年度</td> <td style="width: 25%;">平成 28 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> <td style="text-align: center;">実績</td> <td style="text-align: center;">目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">99%</td> <td style="text-align: center;">90%以上</td> <td style="text-align: center;">99.4% (152/153)</td> <td style="text-align: center;">90%以上</td> </tr> </table>			平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	99%	90%以上	99.4% (152/153)	90%以上
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度												
実績	目標	実績	目標													
99%	90%以上	99.4% (152/153)	90%以上													
(1) 県内小学校来館校数	138 校(延べ数)															
(2) 体験活動の新規プログラム	「髪飾りを作ろう!」「ミニ船絵馬を作ろう!」															
(3) 当館を会場とし、当館研究員を講師(指導者)とする教員を対象にした研修会	3 回実施															
(4) 出前授業の実施	16 回 594 人(まが玉づくり、火おこし体験など)															
(5) 教育機関への施設利用の周知活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教育委員会の教育施策説明会…上中下越佐渡の小中・特別支援学校校長</li> <li>・新潟市の園長・学校長研修会…保育・幼稚園から高校の園長・校長</li> <li>・県及び新潟市の P T A 連合会研究大会… P T A 役員等</li> <li>・各地区教員研修会…校長・教頭・研究主任・社会科主任等</li> <li>・学校訪問の重点化…常設展・企画展に関する広報活動</li> </ul>															
分 析	<p>(1) 小学校来館数は、減少傾向にあるが、中学校～大学及び特別支援学校の来館者数が増加傾向となっている。</p> <p>(2) 体験コーナー参加者の満足度は高い水準を維持している。</p> <p>(3) 当館に来館したことがある教職員からは、展示や解説、体験活動を高い評価を得ているので、来館経験の無い教職員に対する働きかけを強化する必要がある。</p>															
課 題	<p>(1) 幅広い教員層に対する広報活動の重点化、教員研修の実施</p> <p>(2) 体験活動の新プログラム開発・内容の充実</p> <p>(3) 事前事後学習に役立つ教材や学習機会の準備</p>															



II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる            やや評価できる            やや評価できない            評価できない            判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校来館数は、やや減少傾向にあるが、中学校～大学及び特別支援学校の来館者数が大きく増加し、しかも体験コーナー参加者の満足度は99.4%と高い水準を維持していることから、評価できる。</li> <li>・ 体験活動の新規プログラムや講演会・関連イベントにも工夫があり、学校教育に活用される博物館となっている。</li> <li>・ 教育機関への施設利用の周知やポスター等での広報活動を引き続き実施するとともに、県立教育センターや長岡市教育センター及び各市町村小・中校長会等とも連携し、研修会等での活用を呼びかけ、来館経験の無い教職員に対する働きかけを一層強化する必要がある。</li> </ul>

### 新潟県立歴史博物館 県内小学校来館数の推移

年度	来館校数	県内小学校数	比率
21	157	552	28.4
22	161	534	30.1
23	171	531	32.2
24	151	525	28.8
25	164	510	32.1
26	142	485	29.3
27	138	484	28.5

### 新潟県立歴史博物館 中学校～大学及び特別支援学校の来館数の推移

年度	来館校数	来館者数
21	47	2,268
22	49	1,833
23	47	2,612
24	52	2,116
25	66	2,370
26	52	1,563
27	70	3,116

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	教育・普及 / 社会教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。</li> <li>・ 館内・館外での活動の充実を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会教育機関との連携に努める。</li> <li>・ 館内講座・出前講座を継続する。</li> <li>・ ボランティアの受入の推進。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ 出前講座の参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>94%</td> <td>90%</td> <td>88.9% (392/441)</td> <td>90%</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	94%	90%	88.9% (392/441)	90%
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	94%	90%	88.9% (392/441)	90%										
	○ 館員の講座・講演会の参加者満足度	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>89%</td> <td>90%</td> <td>91.1% (889/976)</td> <td>91%</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	89%	90%	91.1% (889/976)	91%
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度										
	実績	目標	実績	目標										
	89%	90%	91.1% (889/976)	91%										
	○ ボランティアの活動延人数	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>368</td> <td>190</td> <td>625</td> <td>600</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	368	190	625	600
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度										
実績	目標	実績	目標											
368	190	625	600											
(1) 出前講座	県内 12 市町村から要請 18 回実施、参加者 648 名													
(2) 館内講座	49 講座・講演会を実施、参加 2,099 名													
(3) ボランティア登録者	22 名 (中学生ボランティア 5 名)													
(4) ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料整理、講座の受付、体験コーナーや学校団体の体験活動の補助等</li> <li>・ 常設展示室「縄文人の世界」案内解説 (中学生ボランティア)</li> </ul>													
(5) ボランティア増加の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学生ボランティアの継続実施</li> <li>・ 来館者に対する広報活動の重点化</li> </ul>													
分 析	<p>(1) 出前講座は市町村の要請に基づいて計画、実施している。もちろん、市町村及び公民館等の担当者との連絡を密にし、より多くの県民の利用につながるよう取り組む。なお今年度は、会場となった施設の設備上の問題などのため、満足度の数値が低下した。なお、回数も昨年度を上回っているが、満足度向上・高品質維持を第一義と考えており、回数増を目標とはしていない。(2) の館内講座も同様)</p> <p>(2) 館内講座は、昨年度同様、定期的に行っている定番の講座に継続して参加している常連の聴講者が目立った。一方、企画展と連動した記念講演会とシリーズ講座も好評を博した。</p> <p>(3) ボランティア登録者は昨年までに比べ大幅に増加し、各活動へ熱心に参加していただいている。体験コーナーの企画・運営にも参画し、よりよい博物館活動になるように力を注いでいただいている。</p>													

	(4) 7～8月に、5名の中学生ボランティアによる常設展示の案内解説を実施した（2年度目）。学校及び地域との連携により、若年層の社会参加、館の事業として公共の場における情報発信を継続的に進めることができた。
課題	(1) 出前講座：各地区の生涯学習担当者との連携強化、広報活動展開 (2) 館内講座：固定客の維持、参加者の若年層への拡大 (3) ボランティア：活動内容と組織の充実、活動に即した研修等の実施

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる            やや評価できる            やや評価できない            評価できない            判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座 18 回（前年 15 回）、館内講座 49 講座（前年 40 講座）、ボランティアの活動延べ人数 625 人（目標は 190 人、前年 368 人）は、大いに評価できる数値である。博物館としては、利用者の満足度向上等のアウトカムを一層重視し、出前講座の回数等のアウトプットのみを追求していないとはいえ、社会教育施設として、県民に広く利用される博物館の姿を裏付ける数値となっている。</li> <li>・ ボランティア登録者 22 名（前年 18 名）、中学生ボランティア 5 名（前年 3 名）と増加し、各活動へ熱心に参加していることが評価できる。公民館等が減少する中で、青少年や高齢者等に利用され、生涯学習、社会教育の発展に寄与する博物館を望む。</li> <li>・ 博物館の魅力を市町村関連及び公民館関連の利用だけでなく、企業経営者等に周知し、新潟県の良さをアピールする場として、利用の拡大を図りたい。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	連 携－学術面の連携
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。</li> <li>・ 幅広い団体とのネットワークを強化する。</li> </ul>
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。</li> <li>・ 県内外の他館および団体と共催しての巡回展の実施に努める。</li> </ul>

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 地域史研究ネットワークの拡大												
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>22 団体</td> <td>(各年目標なし)</td> <td>23 団体</td> <td>25 団体</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	22 団体	(各年目標なし)	23 団体	25 団体
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度									
	実績	目標	実績	目標									
22 団体	(各年目標なし)	23 団体	25 団体										
○ [評価指標] 移動展示・展示協力													
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>継続</td> <td>継続</td> <td>継続</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	継続	継続	継続	継続	
平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度										
実績	目標	実績	目標										
継続	継続	継続	継続										
	<p>(1) 地域史研究ネットワーク新規参加団体 1          ※新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月 1 回）          ※研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年 1 回）</p> <p>(2) 新規 地域史ネットワーク参加団体対象研修（館内向け IPM 研修を公開）</p> <p>(3) 移動展 「復興祈念展」 2 回（十日町市、佐渡市）</p> <p>(4) 展示協力 7 件          ・前嶋 敏（津南町農と縄文の体験実習館なじよもん「魚沼地方の中世」）          ・山本哲也（新十日町市博物館基本構想検討委員会）</p> <p>(5) 研究協力 9 件          ・浅井勝利（三条市教育委員会・三条市犬川原北遺跡出土木簡解読）          ・宮尾 亨（セインズベリー日本藝術研究所・信濃川 - 千曲川プロジェクト）</p> <p>(6) 全国規模研究会への参画 被災文化財等救援委員会など</p> <p>(7) 高等教育機関講師派遣 21 件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学ほか）</p>												
分 析	<p>(1) 地域史ネットワークは参加団体向けの研修など充実をはかっている。</p> <p>(2) 移動展・展示協力・研究協力・高等教育機関講師派遣など、県内外との協力関係が引き続き維持できている。</p>												
課 題	<p>(1) 地域史ネットワーク参加団体向け研修を定期化していく。</p> <p>(2) 本県の文化財救援体制整備について、県教育委員会と協議継続。</p>												

### II 評価委員会による検証・評価

取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留
-----------------	--

<p>評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村等の資料館・博物館も予算面・人的面でかなり厳しく、資料等の取扱や保存のための技術習得が単独では困難な状態が続いていると聞く。そのため貴重な資料の毀損や劣化を招いている実態もある。県立博物館は新潟県における歴史系博物館の中核的役割を担っていることもあり、市町村の博物館等へより積極的に資料保存活動に向けた指導助言を行ってほしい。</li> <li>・災害にともなう文化財レスキューへの重要度が高まっている。新潟県内の歴史系博物館の中核的博物館であることを意識し、市町村の博物館や地域史研究ネットワーク等との連携をより強化し、被災資料の救済や保存活動を展開する拠点となることを期待する。</li> </ul>
--	---

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	連携 / 地域づくりに向けた連携	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。</li> <li>・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体との事業共催等による連携を模索する。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価					
	○ [評価指標] 共催事業等による連携団体数				
		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
		実績	目標	実績	目標
		16	15	20	15
取組実績	(1) 新潟県立歴史博物館友の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際博物館の日記念事業「博物館友の会カフェ」「除籍本・研究員の私蔵本フェア」(5月)</li> <li>・友の会主催第12回マイ・コレクション・ワールドの開催(6～7月)</li> <li>・講演会「海揚がりの陶磁器」及び「会員の集い2015」実施(11月)</li> <li>・研修旅行「浅井研究員とめぐるロマンの旅」(5月)、「西田研究員とめぐる いわて縄文文化の旅」(11月)</li> <li>・きのこ観察会(ながおか田中長嶺事績顕彰会との共催・10月)</li> <li>・コンサート「火焰土器×津軽三味線 ―縄文への響き―」(11月)</li> </ul>			
	(2) 県内各種イベントでの体験ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関原楽市・縄文まつり(11月)でのまが玉作り体験(関原地区商工会主催)</li> <li>・長岡まつり(8月)、メディアシップなつ祭り(8月)、米百俵まつり(10月)での江戸時代の遊び及び甲冑体験</li> </ul>			
	(3) 長岡鉄道模型クラブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展示室を会場に鉄道模型走行実演会を開催(11月)</li> </ul>			
	(4) その他の関係団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火焰街道博学連携プロジェクト ・関原サイノカミ有志の会</li> <li>・表千家われもこう(企画展での呈茶席開催)</li> <li>・日本アニメ・マンガ専門学校(JAM)</li> </ul>			
	(5) リピーター割引の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設や万代島美術館、自然科学館などの県内美術館博物館の半券を提示することで当館の企画展観覧料を2割引とし、連携を進めている。</li> </ul>			
	(6) 近隣の社会福祉施設への民具貸出し(新規)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスセンターかつぼ園、ケアセンターみのり(回想法を取り入れたレクリエーションに活用し、社会貢献)</li> </ul>			
分析	<p>(1) 歴史博物館と共催文書を交わした 10 件を含め、共催事業数をカウント。                  (2) 友の会の活動としては「除籍本・研究員の私蔵本フェア」などの新規事業を開催したほか、常設展示室ロビーの空間を活用してコンサートを開催した。                  (3) 鉄道模型走行実演会には2,012名が参加。旧長岡駅舎の模型を設置するなど、歴史に触れながら、大人から子どもまでが楽しめる企画内容であった。</p>				
課題	<p>(1) 新規団体の開拓…これまでの協力団体からの拡大                  (2) 地域づくりに向けた連携強化…地域の文化団体と連携を図りながら、歴</p>				

	史を通じた地域づくりを支援 (3)連携団体との広報協力体制の整備・・・友の会会員による地域別の広報活動協力
--	--

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携団体数は、目標比＋５件（前年比＋４件）と２０件の実績となったことから、評価できるとした。</li> <li>・１１月の鉄道模型走行実演会には、多くの参加者を集めた。また社会福祉施設への民具貸出しの新規実施も始めており、積極的な取り組み姿勢がうかがえる。</li> <li>・今後も各種関係団体との連携強化に努めていただきたい。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	情報発信／情報発信	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館の活動について、県民認知度を高める。</li> <li>・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。</li> <li>・IT やマスコミを活用した情報発信の充実を図る。</li> <li>・県外客誘致のための広報に努める。</li> <li>・観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数												
	<table border="1"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>220/134/172</td> <td>210/62/150</td> <td>242/122/192</td> <td>216/65/156</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	220/134/172	210/62/150	242/122/192	216/65/156
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度									
	実績	目標	実績	目標									
	220/134/172	210/62/150	242/122/192	216/65/156									
	○ [評価指標] 館ホームページへのアクセス件数												
	<table border="1"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>104,968</td> <td>90,000</td> <td>106,335</td> <td>90,000</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	104,968	90,000	106,335	90,000
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度									
	実績	目標	実績	目標									
	104,968	90,000	106,335	90,000									
○ [評価指標] 観光団体による来客者数（クーポン利用団体のみ）													
<table border="1"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>606 人(23 件)</td> <td>400</td> <td>304 人(10 件)</td> <td>400</td> </tr> </table>	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	606 人(23 件)	400	304 人(10 件)	400	
平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度										
実績	目標	実績	目標										
606 人(23 件)	400	304 人(10 件)	400										
(1)報道掲載													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞・雑誌・テレビ等はいずれも目標値を達成できた。</li> <li>・雑誌は、県内各地域のタウン誌や広告媒体（フリーペーパー）の他、県外の雑誌にも掲載され、目標値を大幅に上回っている。</li> </ul>													
(2)館ホームページ													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から公式ツイッターを開設し、頻繁に情報発信した。</li> <li>・11月の館ホームページ・ハッキング事案を受け、情報危機管理体制の見直し・強化に努めた。</li> </ul>													
(3)観光団体と来客													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内主要温泉施設訪問、道の駅訪問、老人クラブ訪問等</li> </ul>													
分 析	<p>(1)プレゼントパブリシティ（企画展招待券を活用した『読者プレゼント』など）を推進した結果、県内外の雑誌等に掲載された。</p> <p>(2)公式フェイスブック、公式ツイッターからの館ホームページへの誘導が、館ホームページアクセス数増加に結びついている。</p> <p>(3)県内外から団体客が来館した昨年度の「親鸞となむの大地」展のように団体客を迎え入れることができず、今年度は例年並みの数に戻った。</p>												
課 題	<p>(1)企画展の内容に当てはまる雑誌等に積極的に情報提供する。</p> <p>(2)館ホームページのアクセス数増加にともない、よりセキュリティを強化していく。</p> <p>(3)博物館を含めた周辺地域での観光の提案</p>												



II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する 全体的評価	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業との連携をもっと強め、企業が広報してくれるようなネットワークの構築を目指したい。</li> <li>・観光面での魅力を持つ施設だという意識をもって集客の働きかけを行ってほしい。県観光協会との連携を今以上に強めていただきたい。</li> <li>・学芸員自らがマスメディアに露出し、館の魅力や学芸員の仕事、研究内容をアピールするなど、常に新しいことにも挑戦し、話題を提供する攻めの姿勢を求めたい。</li> <li>・2020年東京オリンピック・パラリンピック及び前年からの文化プログラムを見据え、火焰土器・火焰型土器の情報発信を心がけてほしい。</li> </ul>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	管理運営	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。</li> <li>・ 目標の実現に向けた効率的な運営を行う。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己評価・外部評価の実施</li> <li>・ 評価結果の的確な反映によるP D C Aサイクルの確立</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価																
取組実績	○ [全体収支比率]	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>11%</td> <td>7%</td> <td>4%</td> <td>8%</td> </tr> </table>			平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	11%	7%	4%	8%
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	11%	7%	4%	8%												
	○ [評価指標の達成率]	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 26 年度</th> <th colspan="2">平成 27 年度</th> <th>平成 28 年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td>目標</td> </tr> <tr> <td>68%</td> <td>100 %</td> <td>60%</td> <td>100%</td> </tr> </table>			平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度	実績	目標	実績	目標	68%	100 %	60%	100%
	平成 26 年度	平成 27 年度		平成 28 年度												
	実績	目標	実績	目標												
	68%	100 %	60%	100%												
	(1) 博物館運営方針（H24～H28）、及び年度初めに設定した「当面の課題」6項目に沿って活動全般を進めた。															
	(2) 現運営方針に基づくP D C Aサイクルを継続した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動評価表の作成、及び経営会議での議論等による自己評価</li> <li>・ 外部評価委員による検証と評価</li> <li>・ これらを踏まえた改善と進捗管理</li> </ul>															
(3) 月各1回の課内会議、運営会議、全体会議を連動させて進捗管理に努めた。																
(4) 施設管理について、不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施したほか、新聞投書を通じた意見提案や館ホームページ・ハッキング事案に対しても適切な対応に努めた。各日の管理責任者を「管理主任者」として明示し、管理体制を徹底した。																
(5) 来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応（業務日報・アンケート・案内説明員研修等）を堅持し、防災訓練（年2回）等による深化を図った。																
分 析	(1) 目標の設定・共有を図りながら進める、これまでの館運営の基本的な仕組みを継続し、定着・深化を図っている。 (2) 上位指標の中では、夏及び秋の企画展の観覧者数減を主要因として、観覧者数が大きく落ち込んだ。															
課 題	(1) P D C Aサイクルを定着させ有効に機能させる。 (2) 入館者数を増やすことによる観覧料収入の増加、経費の節減 (3) 計画的な設備・機器等の更新・補修の実施															

新潟県立歴史博物館評価委員会報告書

発行日 平成28年8月29日

編集・発行 新潟県立歴史博物館評価委員会